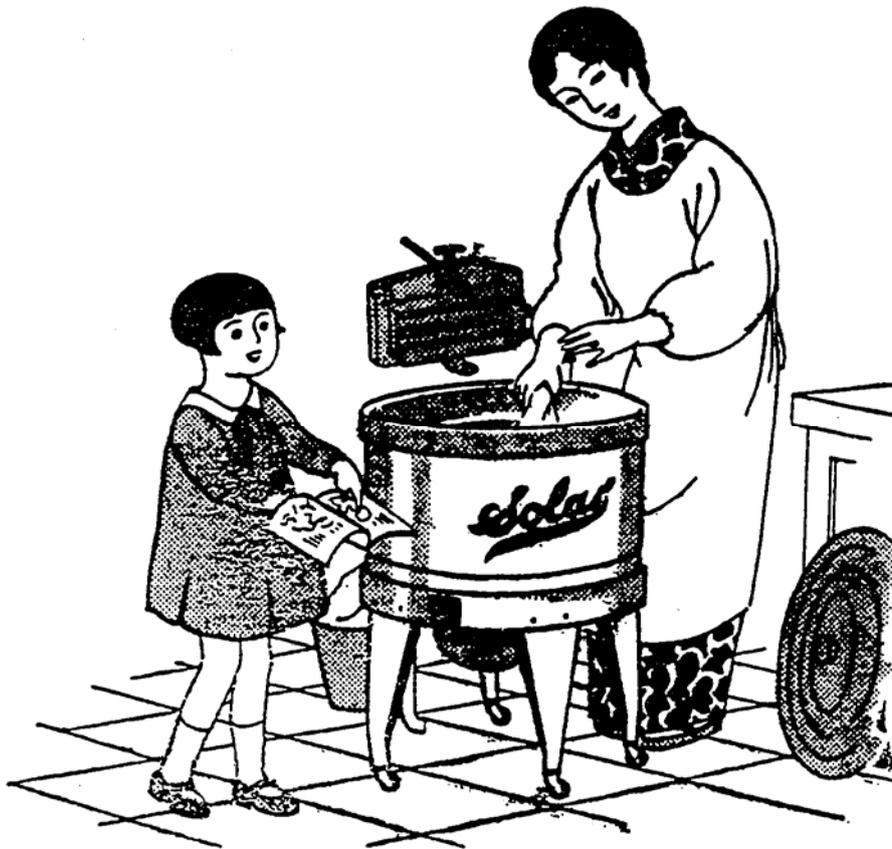


## 暮らしを変えた新製品 ～身近なモノがデビューした頃～



平成16年1月6日(火)～2月27日(金)

突然ですが、周りを見回してみてください。あなたの暮らしの中で、「これがない生活なんて考えられない」というものはなんでしょう。パソコン？電気炊飯器？それともチョコレート？人それぞれに、なにかひとつは思いつくのではないのでしょうか。

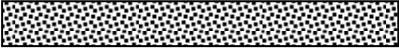
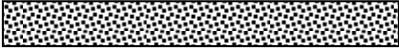
現在、私たちにとってたいへん身近であり、その存在が当たり前となっているものにも、かつては「新製品」と呼ばれた時期がありました。それらの中には、登場当時と現在とで、

その様態が大きく違うものも少なくありません。さらに、その登場により、私たちの暮らしや社会までも変えてしまった、エポックメイキングな「新製品」もあります。

今回の展示では、そのようなものの中から、「カレーライス」、「電話」、「電気洗濯機」の三つを取り上げ、その登場から普及までの様子を、当館所蔵の資料によりご紹介します。

#### 使用上のご注意(凡例)

- ！ <>内の記号は、当館請求記号です。
- ！ 一部の資料については、展示スペースの関係上、または資料保存の関係上、マイクロフィルムからの複製を展示しております。
- ！ 請求記号が「YA」「YB」「YDM」で始まる資料をご利用の際は、マイクロフィルムでの閲覧となります(展示期間中のご利用も可能です)。
- ！ 一部の資料については、国立国会図書館ホームページ内「近代デジタルライブラリー」で全頁の画像をご覧になれます。(URL:<http://kindai.ndl.go.jp/index.html>)


 展示資料一覧
 

製品番号：1  
カレーライス

カレーのルーツははっきりしませんが、釈迦がその命名者であるという説もあります。日本人は平均して月3回は食べている、という統計もあるように、今や日本人の食生活になくてはならないカレー。インドで生まれたカレーは、どのように日本にもたらされたのでしょうか。

■日本にカレーがやってくる前■

1. 増訂華英通語(福沢諭吉全集, 第1巻)

慶応義塾編 2版 岩波書店 1969

<US21-7>

万延元年(1860)に福沢諭吉(1834-1901)が渡米した際、『華英通語』という、英語と中国語の辞書を購入しました。帰国後、これに訳語と英語の発音を付して出版したのが本書ですが、この中に“Curry”が紹介されています。

※国立国会図書館ホームページ「近代デジタルライブラリー」で、『華英通語』全頁の画像をご覧になれます(『福沢全集』巻1 [時事新報社 明31 <YDM102528>] より)。

2. 山川老先生六十年前外遊の思出

山川健次郎述 武蔵高等学校校友会 1931

<377.6-Y289r>

記録に残る限り、日本人で最初にカレーライスを食べたのは、明治期の物理学者、山川健次郎(1854-1931)だと考えられています。明治4年(1871)、国費留学生としてアメリカへ渡る途中の山川が、船酔いと慣れない洋食による極度の体調不良の中で、飢えをしのぐために迷った挙句注文したのがカレーライスでした。しかし、上にかかっているカレーを食べる気になれず、添えてあった杏の砂糖漬けと一緒に米飯を食べた、と語っています。

■日本初のカレーのレシピ■

3. 西洋料理指南：下巻

敬学堂主人著 雁金書屋 明5

<YDM68860>

カレーが日本に入ってきた正確な時期は判明していません。現存する資料の中でカレーの作り方に触れている最も古いものの一つが本書で、“西洋料理”として紹介されています。玉ネギではなく長ネギを用いるほか、「鶏、海老、鯛、鱈赤蛙等ノモノヲ入テ能ク煮」とあるのが目を引きます。

#### 4. 西洋料理通：下巻

仮名垣魯文編 万笈閣 明5

<YDM68861>

『西洋料理指南』と同様に、カレーの作り方に触れている最も古い資料の一つです。本書には“「カリド、ウイル、ヲル、フアウル」カリーの粉にて肉或は鳥を料理するを云”と紹介されています。『西洋料理指南』のカレーと比べると、現代の私たちが食べているカレーに近いものと言えます。

※本資料については、平成16年1月6日から2月4日までは原資料を、2月5日から2月27日まではマイクロフィルムからの複製を展示します。

#### 5. カレー料理日本探訪

咖喱倶楽部／家庭画報編集部編 世界文化社 1987.12

<EF27-E329>

『西洋料理指南』等のレシピに基づき、当時のカレーを再現しています。

#### ■ちょっと変わったカレーの食べ方■

#### 6. 「和洋折衷料理」（家庭雑誌）

1904年5月

<Z23-465>

“カレーの味噌汁”のレシピを紹介しています。

#### 7. 「新案料理数品」（家庭雑誌）

1906年4月

<Z23-465>

カレーに、ウニと海苔をかける食べ方を紹介しています。

#### ■日本料理の中のカレー■

#### 8. 日本料理法大全

石井治兵衛著／石井泰次郎校／清水桂一訳補 第一出版 1965

<596.1-I597n>

本書の原本は明治31年(1898)刊。石井家は代々江戸幕府の料理番を務めており、石井治兵衛自身も宮内省の大膳職という日本料理の専門家でした。その彼が“日本料理”としてカレーの調理法を記載しています。

#### ■日本人初の西洋料理店■

#### 9. 日本・西洋・支那三風料理滋味之饗奏

伴源平編 赤志忠雅堂 明20.5

<YDM68822>

日本人による初の西洋料理店は、文久3年(1863)に草野丈吉(1840-86)が長崎で開業した「自由亭」だといわれています。いつ頃からは不明ですが、カレーも提供されていました。店は繁盛し、明治14年(1881)には大阪中之島にも新店を開業しています。本書には「難波鉄橋上ヨリ中之島公園ヲ望ム図」があり、その一角に自由亭の建物が描かれています。

## ■小説に見るカレー■

## 10. 三四郎

夏目漱石著 春陽堂 明42.5

&lt;YDM93889&gt;

『三四郎』は、明治41年(1908)、朝日新聞に連載された小説です。この中に、ある風変わりな学生が見知らぬ学生を洋食屋へ連れていき、ライスカレーを食べさせる場面があり、この頃にはすでに、ライスカレーは気安く人におごることができるほど大衆化していたことがうかがえます。

※国立国会図書館ホームページ「近代デジタルライブラリー」で全頁の画像をご覧になれます。

## &lt;価格表&gt;

①カレーの値段	②巡査の初任給	①÷②(月給に占める割合)
8 銭(明治 10 年)	4 円(明治 7 年)	0.02(2%)
12 銭 5 厘(明治 10 年)	4 円(明治 7 年)	0.032(3.2%)
5 銭～7 銭(明治 35 年頃)	9 円(明治 30 年)	0.006～0.008(0.6～0.8%)
15 銭(明治 40 年)	12 円(明治 39 年)	0.013(約 1.3%)

①カレーの値段	②銀行員の初任給	①÷②(給料に占める割合)
15 銭(明治 43 年)	40 円(明治 43 年)	0.004(約 0.496)

※小数点第4位四捨五入

※参考資料により構成

製品番号：2

電 話

もしも電話機がなかったら、生活の速度、仕事の方法、人とのつながり、すべてが違っていることでしょう。日本に初めて電話機が輸入されたのは、明治 10 年(1877)。アレキサンダー・グラハム・ベル(Alexander Graham Bell：1847-1922)による発明から 1 年後のことでした。

■電話機紹介■

11. 小学作文五百題：頭書類語 第一

安井乙熊編／青木輔清校 同盟舎 明11

<YDM81175>

明治 11 年(1878)、文明開化の波に乗り、早くも国産の電話機が作られました。本書に紹介されているのはまさにそれ、「国産第一号磁石式電話機」。ただし、送話器と受信器があべこべに描かれています。

12. 文明利器電話機使用問答

加藤木重教著 博聞社 明21.7

<YDM66843>

本書は増補改訂を重ねた、電話入門の定番書。著者の加藤木重教は、日本における電話機の改良と普及に貢献した技術者です。展示部分では電話交換の方法について説明しているのですが、通話場所の例として「名医」とあるのがおかしいです。たしかに、藪医者につながれたくはないけれど…。

※国立国会図書館ホームページ「近代デジタルライブラリー」で全頁の画像をご覧になれます。

■最初の公衆電話実験■

13. 「熱海東京間の電話機」（報知新聞）[マイクロ複製]

明治22年1月2日

<YB-18>

明治 22 年(1889)、東京～熱海間に初の長距離電話回線がひかれました。実験と PR を兼ねた営業で、2 年をかけた工事のすえ、めでたく元旦に一般公開されたものです。本記事には営業初日に電話を試用した報知新聞社員の体験が書かれていますが、「応答の少し途切れたる時パチパチとする音の耳に響く」など、臨場感あふれる記述です。

14. 「電話にて憲法を報ず」（時事新報）[マイクロ複製]

明治22年2月11日

<YB-65>

明治 22 年 2 月 11 日、大日本帝国憲法公布の日。時事新報は前述の長距離電話により、東京から熱海まで憲法の条文を報道しました。本記事の記者は「若し今日大坂、東京又は五港に電話の設けありしならんには熱海と仕合を同じくすべかりしを」と述べていますが、さすがはジャーナリスト。

もの珍しさだけではなく電話の価値をいち早く認識したようです。

## ■一般向け電話事業、開始■

### 15. 電話交換規則

東京電話交換局 明治25

<特273-828>

明治23年(1890)、逓信省による一般向け電話事業が始まりました。明治25年(1892)発行の本冊子には、電話交換加入申込書の書式や電話機の扱い方が記されています。ちなみに展示部分冒頭の「使用料」とは個人用電話に加入している場合の料金、「電話料」とは公設の「電話所」で電話を借りて通話する場合の料金です。

### 16. テレグラフ 天連閣理府からテレトピアへ：目でみるでんでん100年史

東京電気通信局 1970

<DK341-15>

日本で最初の普及型電話機である、「ガワーベル電話機」(右頁)。受話器は二つついており、両耳にあてることできるのですが、本図では片方しか使っていません。このタイプの電話機は、明治29年(1896)まで使用されました。

### 17. 横浜東京電話交換加入者名簿

東京電話交換局横浜支局 明27

<YDM45350>

一般向け電話事業開始から4年後の加入者名簿。大蔵省などの官庁や、書籍商・料亭といった商家に混じり、大倉喜八郎・大山巖・大江卓・大隈重信等、政財界の大物の名が見られます。

※国立国会図書館ホームページ「近代デジタルライブラリー」で全頁の画像をご覧になれます。

## ■電話交換室と電話交換手■

### 18. 電話交換対話の益友

中田良介編 高梨東神堂 明27.10

<YDM45209>

電話交換手は、明治における女性職業の花形でした。本図には電話局内部の様子と、ガワーベル電話機を使用する人物の姿が描かれています。

## ■「自動電話」の登場■

### 19. 電話案内

田山宗堯編 警眼社 明39.9

<YDM45207>

明治33年(1900)、街頭に「自動電話」が登場しました。のちの「公衆電話」です。通話料金は後払い。投入された硬貨の種類に応じてゴングか鐘が鳴る仕組みで、交換手はそれらの音により料金の払込を確認しました。

■多様化する電話機■

20. 電話機及附属品：英和对訳

加藤木重教編 電友社 明42.5

<YDM66841>

本書は電話機および周辺機器の販売カタログ。電話機の普及に従い、実用性に加え、装飾性をも売りにする機種も現れました。展示箇所で紹介されている「甲号卓上電話機」は、このカタログの中でもいちばんの高級品。

21. 電話機及単式交換機目録

中山一郎 日本電気 明44.7

<YDM66839>

明治の携帯電話！といっても、所定の差込口にコードをつないで使うもの。参考のため、軍隊用「野戦電話」の使用法(『電気之友』第36号[電気之友社 明治27年<YA5-1049>]より)も、あわせてご覧ください。

■自動式電話交換開始■

22. 自動電話の話

高田重雄 富士通信機製造 昭11

<658-192>

本書は昭和11年(1936)に発行された、自動電話の広報パンフレット。機械による自動式電話交換は大正15年から始まりましたが、交換手による手動式電話交換と併用された時期がかなり長く続き、日本全国で電話交換の自動化が終了したのは、昭和54年(1979)のことでした。

<料金表>

①電話機使用料(年額)	②巡査の初任給	①÷12÷②(月給に占める割合)
50円(明治23年)	8円(明治24年)	0.521(52.1%)
40円(明治23年12月)	8円(明治24年)	0.417(41.7%)
35円(明治25年)	8円(明治24年)	0.365(36.5%)

①電話機使用料(年額)	②銀行員の初任給	①÷12÷②(月給に占める割合)
66円(明治30年)	35円(明治31年)	0.157(15.7%)

大正9年、料金体系変更(年額一定の使い放題から基本料・度数料組み合わせ形式へ)

①電話機使用料(年額)	②銀行員の初任給	①÷12÷②(月給に占める割合)
40円(大正9年)(基本料)	40円(大正7年)	0.083(8.3%)

※小数点第4位四捨五入

---

①通話料(度数料)	②銀行員の初任給	①÷②(月給に占める割合)
2 銭(大正 9 年)	40 円(大正 7 年)	0.0005(0.05%)
3 銭(大正 13 年)	50 円(大正 11 年)	0.0006(0.06%)

※参考資料により構成

製品番号：3

電気洗濯機

「洗う」という行為は、紀元前から行われてきたと考えられています。「お爺さんは山へ柴刈りに、お婆さんは川へ洗濯に」というおとぎ話からも分かるように、古来より洗濯は主として女性の仕事とされてきました。電気洗濯機は、女性労働にどのような影響を与えたのでしょうか。

■手動洗濯機■

23. 「家庭用の洗濯機」（読売新聞 [東京]）[マイクロ複製]

昭和3年1月24日 朝刊 3面

<YB-41>

洗濯の知識の改善は国家経済の上に大きな影響を及ぼす、と論じたうえで、手動洗濯機を紹介しています。本体の横にハンドルがついているのが写真から分かります。価格は60円で、10年間は使えるとあります。

■初の国産電気洗濯機■

24. 日本清浄文化史

花王石鹼株式会社資料室編 花王石鹼 1971

<GB82-16>

19世紀に欧米で発明された電気洗濯機は、大正11年(1922)、アメリカのソール社から初めて日本に輸入されました。そして昭和5年(1930)、芝浦製作所株式会社(現東芝株式会社)がこのソール社の技術を導入し、初の日本製電気洗濯機「ソーラー」を製造しました。スイッチ一つで水洗いから電動絞り脱水まで、約20～30分ですみました。価格は370円でした。

25. 「ソーラー電気洗濯機」（読売新聞 [東京]）[マイクロ複製]

昭和8年6月6日 朝刊 3面

<YB-41>

上記「ソーラー」の広告です。洗濯機を使いながら子どもの読書の面倒をみる母親の姿が描かれており、「子供を背負い、洗濯板とたらいで手洗い」の状況からの変化が感じられます。東京電気株式会社とあるのは、現在の東芝株式会社です。

26. 婦人年鑑 昭和14年版

東京聯合婦人会編 東京聯合婦人会 昭13

<14.4-618>

「家庭」の章の中に「家庭電化」の項目があり、電気冷凍器、電気掃除機に続いて電気洗濯機が紹介されています。この頃には複数のメーカーが電気洗濯機の製造を始めていました。昭和12年(1937)の全国(外地も含む)の洗濯機保有台数は3,197台だったとの調査結果もありますが、値段の高さや戦争の影響等により、一般家庭への普及は戦後になります。

## ■戦後の洗濯機■

27. 「洗濯機と冷蔵庫 ー家庭電化時代来るー」(週刊朝日) [マイクロ複製]

1955年8月21日

&lt;YA5-1004&gt;

戦後、各メーカーは電気洗濯機の製造を再開します。昭和28年(1953)は一般に「電化元年」とも呼ばれ、「三種の神器」(洗濯機・冷蔵庫・白黒テレビ)という言葉が流行したのもこの頃でした。本資料には、店で電化製品を物色する人々の写真が掲載されています(左頁)。右頁には、電気洗濯機の広告があります。

28. 「主婦の生活に潤いを！」(アサヒグラフ) [マイクロ複製]

1949年3月16日

&lt;YA-98&gt;

富士電機製造株式会社(現富士電機ホールディングス株式会社)による洗濯機の広告。手洗いで毎日2時間かかっていた洗濯も、洗濯機を使用すれば30分で終わり。「残りの1時間半を主婦の時間に有効」と宣伝しています。

## ■電気洗濯機の使い方■

29. 「漫画『サザエさん』に見る戦後庶民生活史」(サライ)

1991年11月7日

&lt;Z24-1026&gt;

電気洗濯機の全国普及率が50%を超えるのは昭和38年(1963)になってからです。当時は電気洗濯機を共同で購入し、順番で使うことも多かったようです。本資料には、サザエさんたちが、借りてきた洗濯機を使って餅をのしている(!)マンガが掲載されています。

30. 朝日クロニクル週刊 20世紀: 日本人の100年. 12(1955)

朝日新聞社 1999.4

&lt;GB411-G117&gt;

洗濯機を購入できても、上下水道の普及率はまだ低く、家屋の構造も、その置き場所を想定したものではありませんでした。家の中で洗濯機を使うことができず、排水しやすい場所に運び出して使うことも多くありました。

## ■電気洗濯機購入への意識的障壁とその解放■

31. 「モノと女」の戦後史: 身体性・家庭性・社会性を軸に

天野正子/桜井厚著 有信堂高文社 1992.9

&lt;EF72-E389&gt;

洗濯機の普及を妨げていた原因の一つは、「汚れた衣服を真っ白に洗いあげるのは女の務め」という考え方でした。特に農村部では男女間における意識の違いとともに、「私たちが苦勞したのだから今の世代も苦勞するのが当たり前」という旧世代の女性の意識も影響していました。

32. 家電今昔物語

山田正吾〔述〕 三省堂 1983.7

&lt;DL435-53&gt;

庶民の購買意欲を高めるため、手洗い洗濯がいかにか大変であり“洗多苦”であるかを、わかりやすく示す宣伝方法を取ったメーカーもありました。「5人家族の洗濯を1年するのは、象を1頭洗うのと同じ」等のたとえが、ユーモラスなイラスト付きで広告されています。

## 33. 「共かせぎ家庭の家事を語る」（婦人之友）

1956年6月

&lt;YA5-100&gt;

仕事を持つ女性の座談会で、6人中4人が家庭で電気洗濯機を使用している、と答えています。また、洗濯機を買ってから、洗濯は夫の担当になったという家庭もあり、意識の変化がうかがえます。

&lt;価格表&gt;

①洗濯機の値段	②銀行員の初任給	①÷②(月給に占める割合)
60円(手動式)(昭和3年)	70円(昭和2年)	0.867(86.7%)
370円(昭和5年)	70円(昭和2年)	5.286(528.6%)
54,000円(昭和24年)	3,000円(昭和24年)	18(1800%)
28,500円(昭和28年)	5,600円(昭和29年)	5.089(508.9%)
23,000円(昭和32年)	12,700円(昭和32年)	1.811(181.1%)
22,900円(昭和34年)	15,000円(昭和34年)	1.527(152.7%)

※小数点第4位四捨五入

※参考資料により構成

